

2023 年度第5回日本脊椎脊髄病学会・日本側弯症学会合同社会保険システム等検討委員会 議事録

日時：2023 年 11 月 15 日（水）18:00～18:45

場所：Web

出席者依頼者（敬称略）

JSSR（担当理事）大鳥（副委員長）遠藤（委員）赤澤 酒井義人 鈴木 辻 平泉 牧渡邊（外保連委員会）手術：平井、坂井；実務：鈴木、牧、松倉；検査：坂井；内視鏡：高野；処置：平井、松倉；麻酔：牧

（アドバイザー）青田 山縣 細金

側弯症 手術：金子、八木、実務：井上、宮城、処置：酒井大輔、検査：酒井大輔、麻酔：宮城

出席者（敬称略・順不同）：大鳥（理事）、平井（委員長）、平泉、山縣、細金、遠藤、神崎、赤澤、渡邊、井上、酒井大輔、酒井義人、金子、八木、鈴木、辻、高野、坂井、松倉

・理事会報告

大鳥担当理事より、JSSR 総会に演題応募されているヘルニコアと MED の費用対効果比較研究に関して、理事会で簡単に掲示したところ、ぜひ総会での発表を行うようにとのことであった。

・令和6年度改訂に向けての要望項目の要望確認（ご担当の先生）

新設

- 腰椎固定術（ロボット支援） 共同提案 日本整形外科学会（赤澤先生）
- 脊椎側弯症手術 固定術（ロボット支援） 共同提案 日本側弯症学会（赤澤先生）

改正（優先順位の順番）

- K142-5 内視鏡下椎弓形成術の複数椎間加算 共同提案 日本整形外科学会（高野先生）
- K142-5 内視鏡下椎間板摘出(切除)術、内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎弓形成術（通則 14 の追加） 共同提案 日本整形外科学（高野先生）
- K134-4 椎間板内酵素注入療法 共同提案 日本IVR学会 日本ペインクリニック学会（平井先生）
- 脊椎複数回手術後癒着剥離術加算（辻崇先生）

- 椎間板酵素注入療法に対する施行医師技術の適応拡大 主学会日本ペインクリニック学会 共同提案 日本IVR学会、日本脊椎脊髄病学会
- 超音波凝固切開装置等加算の脊椎前方手術への適応拡大（現状、胸・腹腔鏡下手術・悪性腫瘍等に係る手術、バセドウ甲状腺全摘）（牧先生）
- K9393 画像等手術支援加算 患者適合型支援ガイドに脊椎手術を追加

平井委員長より以下ご報告。上記要望を提出しており来年3月に結果が出る予定。頚椎人工椎間板置換術と前方固定術併用の要望も厚労省に提出しているが承認されるか、当委員会で見守っていく。

- 令和8年度改訂に向けてアンケート結果

39名より回答

- **新規**
 - ✓ ロボット手術(頚椎含める)3件
 - ✓ PETLIF/KLIF2件
 - ✓ 変形矯正VCR1件
 - ✓ 小児脊椎加算1件
 - ✓ 空洞症に対するSSバイパス術1件
- **改正**
 - ✓ 再手術加算7件
 - ✓ 頭蓋頚椎移行部加算5件
 - ✓ 顕微鏡下椎弓形成術複数椎間加算2件
 - ✓ 椎間板内酵素注入療法の技術料増点2件
 - ✓ 黄色靭帯骨化症手術の複数椎間加算1件
 - ✓ 内視鏡下椎弓形成術複数椎間加算 1件
 - ✓ 脊髄腫瘍摘出硬膜形成加算1件
- **償還要望**
 - ✓ エアドリルバー多数
 - ✓ マイクロカバー
 - ✓ 放射線防護手袋
 - ✓ 硬膜閉鎖の被覆材
 - ✓ 内視鏡手術時のバイポーラー
 - ✓ メイフィールドピン

平井委員長より上記アンケート結果の報告。

また、以下の確認を行うこととなった。

従来行われている SS バイパス術がどのような請求となっているか、再手術加算については、脳外科学会（NSJ）と共同提案できないか。

また、変形矯正 VCR については、かつて要望して頓挫した経緯もあり、新たなエビデンスが創出されたからが良いかとの結論であった。

・当委員会主導コンドリアーゼ注入療法と MED 費用対効果検証研究の結果

平井委員長より上記検証の結果を掲示。詳細は未発表データであるので、本議事録では未掲載とした。JSSR 総会で発表予定、また複数の英文論文作成予定。前理事長として研究立ち上げに尽力いただき、治験の研究責任者であった松山先生へも詳細のご報告予定。

・JOANR を利用した頭蓋頸椎移行部の固定術の結果

平井委員長より JOANR データを用いた頭蓋頸椎移行部の手術時間の検討結果の報告。目的としては、頭蓋頸椎移行部の固定術と中下位頸椎固定術との診療報酬の差別化、そして K コードの部位別の整理による頭蓋頸椎移行部のエビデンスを出すためのもの。JSSR、NSJ で話が進んでおり、JOA データベース委員会の平泉先生、JSSR データベース委員会の金村担当理事・有馬委員長にお願いして、まとまったデータを使わせていただいた結果である。

この JOANR データの結果は、現在の非公式データ利用による前段階解析の結果では頭蓋頸椎移行部と中下位頸椎の差別化ができる内容となっており、まだクレンジング中のデータであり、公表できるようになったら明文化する方向。和文論文の方が、厚労省へ伝えやすいとの意見があった。また固定範囲だけでなく、除圧範囲も検討したらどうかとの意見が上がり、JOANR は主たる手術と従たる手術のデータがあるので JOANR のデータベース委員へ確認することとなった。

・その他

平井委員長より BKP, PVP, UBE について今後注視する必要があること、また平泉委員より R8 年度の改定アンケートが 6 月なのでそれまでに要望を固める必要があるとの意見を頂いた。

・今後の予定

2023/11 月 NSJ と連携して頭蓋頸椎移行部固定術の差別化についてメール審議
次回定例会 1/17 日(水) 18:00~web にて